慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	桑野仁著 現代管理通貨論
Sub Title	
Author	飯田, 裕康
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.9 (1965. 9) ,p.932(140)-
JaLC DOI	10.14991/001.19650901-0140
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650901-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

にすぐれているかを理解しうる人がいるであろうか。もし氏が「近代主義」を単に非難するのではなく、批判し対決するというのであれば、このような言葉を、せめて市井氏の議論程度に明確にのべる必要があるのではないだろうか。本書にみられる「近代主義」にたいする単なる非難は、著者の意図とは逆に、マルキシズムに対する不信をますます強め、その危機を増大するのに役立つだけであるように思われる。（未来社・一九六五年四月刊・A5・二八〇頁・八五〇円）―持丸　悦朗―

＊　＊　＊

桑野　仁著『現代管理通貨論』

マルクス経済学の立場からは、通例、一九三〇年代の大不況を契機とするこの世紀の資本主義の特徴を、国家独占資本主義として規定する。この国独資が、資本主義発展の一段階であるのか、産業資本主義以来の発展の内的必然的傾向であるのかという点をめぐっては、従来から多くの論者によって論争的問題として取扱われてきている。このいずれの説をとるにせよ、大恐慌以後の資本主義の再生産過程に、国家＝権力機構が決定的に入りこんでいるということは否定できない。経済過程から、この事態を特徴づけようとする場合、まず、いわゆる管理通貨制度に注目しなければならない。また、このような視角が、国独資の運動法則の解明にとって、基本的なものの一つである。本書も、このようなアプローチによる分析である。

管理通貨制度は、二〇世紀資本主義の本質的な側面をなしており、単なる「制度」ではない、というのが著者の基本的な立場である。また、本書の主題をなしている、現代インフレーションの解明のさいに、この視点は、一層明白に貫かれることになる。

また、二〇世紀の資本主義のなかでもつ管理通貨制度の意義は、ソ連邦をはじめとする社会主義国においても無関係ではない。むろん、資本主義の場合とはことなるとはいえ、管理された（計画経済の合理的遂行のための）貨幣制度が存在する。まさに、この二つの体制の管理通貨制度の比較が、資本主義におけるそれのもつ特有の矛盾、階級的性格をもあきらかにする。

二〇世紀後半期の資本主義の特徴として、インフレ経済をあげることに、異存はない。一方には、インフレ＝物価騰貴一般という理解があり、他方には、インフレを国独資のもとでの財政・金融体制に由来する構造的矛盾の発現として把える見方もある。なにが、いかなるメカニズムによって、インフレとなって現象するのか。そのさい、管理通貨制度という信用機構が、いかなる役割を果すのか。この問題につき、とくに一国資本主義的な視角から問題にする場合、その国の信用制度、とりわけ、通貨の供給機構が問題となる。著者は、わが国の場合にも、オーヴァ・ローン（オーヴァ・ボロウイング）現象の根源をなす、関接金融中心の金融機構のうちに、インフレ体制の日本的特質をみようとしている。したがって、管理通貨制度は、通貨調整というテクニカルな問題ではない。二〇世紀資本主義が必然的に要求する価値法則の貫徹形態である。

本書は、現代資本主義における管理通貨制度のもとでの「安定装置」の神話性を解明する恰好の読みものである。（有斐閣・一九六五年二月刊・B6・二〇二頁・四六〇円）

―飯田裕康―